

第1分科会  
幼稚園・保育園ママパパしゃべり場

子育ての悩み・喜びを分かちあおう  
～世代間で話してみよう育児体験～

助言者 清水 玲子 (東洋大学教授)  
司会 市川麻美子  
記録 山崎由美子



保育園に子どもを預けている母親、保育士や小学校の教員など、さまざまな形で子どもと関わっている女性、16名の参加でした。

## ◎ 悩んでいる事などを交えての自己紹介

### ○ 助言者

以前、新座団地に在住し、ひまわり、大正保育園に子ども2人を預け、子育てをしていた。親の介護のために実家のある浦和へ転居したが、子育て仲間は新座にいたので、新座は第2のふるさとです。

### ○ 参加者

- 2歳児、4歳児の母親  
仕事と育児で忙しく、どうしたら毎日どならず済むかを考えてしまう。
- 1歳児、4歳児、小3の母親  
3人の育児をしていると、育児の悩みがなくなってしまう。それではいけないと思いつつ育児をしている。
- 5歳児の双児、小5、中3、高2の母親  
今は日々、中2の娘との葛藤の日々で、思春期の子育ての難しさを感じている。
- 3歳児、5歳児の母親  
2人目にもう少し目をかけてあげないと、と感じている。
- 孫が小学校に行っている  
子育て支援センターのお手伝いを週に何回かしている。
- 保育士  
将来に役立てたい。
- 保育士  
先生の話を楽しみにして来た。
- 3歳児、5歳児の母親  
昨年まで幼稚園に通わせていたが、今年から保育園に。親同士の関わりにとまどう。
- 孫が2人いる。

毎年違う分科会に参加している。

- ・ 小学校勤務
- ・ 保育士

いろんな話を聞いてみたい。

- ・ 小学校勤務
- ・ 保育士

明日からの保育のために役立てたい。

- ・ 保育士

去年は「保育」で参加した。

- ・ 0歳児、3歳児の母親
- ・ 2人の育児の大変さを感じている。
- ・ 保育士

長男が小学校に入った頃は、今ほど学童に入る子どもはいなかった。

## ◎ 参加者の悩みについて皆で話し合しましょう

・昨年まで幼稚園、今年から保育園に預けている。親同士の交流が少ないこと、子どもが幼稚園に行きたがっていることで、仕事と育児のバランスについて悩んでいる。

→クラス交流会を早めにやって、親同士のつながりを作ったらどうか。

→役員をやると他の年齢の子どもの親との関わりが出てくるので、顔なじみになりやすいのでは？

→「子どもを保育園に預けてまで仕事をするなんて、子どもがかわいそう」という気持ちを親が思っていたら、子どもに伝わる。親が頑張っている姿を子どもに見せる。

・保育園に3歳児を預け、現在2人目（0歳児）の育休中。土日に父親が仕事で不在の日、どう過ごすか。また1人で2人のお風呂を入れるのが大変（上の子が下の子のお世話をしたがるが、お湯を頭からかけてしまうので、昼夜2回に分けて1人ずつお風呂に入れたりしている）

→土日もいつも通りの時間に起こし、午前中のうちに上の子優先でたくさん遊ぶ。

→近所のお友達を誘って一緒に公園などへ行く。

→バスチェアを使う。

→上の子にお世話させてあげることと、母がすることを分担して説明する。

→この話題では、その後、他の参加者より使わなくなった乳幼児バスチェアがゆずられました。

## ◎ 助言者より

今日のこの分科会では、今子育てをしている人や、子ども達に関わっている人が直面している悩みを打ち明け、お互いの話を聞くことによって、少し前に進めるきっかけになると良いと思っています。

保育士、保々連の人、小学校の先生や学童の先生など、ありそうでない関係の方々のお互いの悩みを聞き合い、お互いがお互いを守っていく。子ども自身の悩みというよりは、大人がその中でどうやってつながっていけるかが大切。例えば子どもの万引きなどの事件があった時、その子どもと親だけの問題としてではなく、親同士のつながりから親同士が守り合い、親同士が子ども達を守り合っていく。そこから親が育ち直すことができる。これから先、そういうことがたくさんある。我が子だけは守りたい、でも守りきれない。地域の中でいろんな大人が守る、守ろうとする。困った時に支え合える関係を作る。

世の中の流れや今の政策によって、地域の中で、本当は手をつないでいかなきゃいけない人達の間がバラバラにされていく。学校の先生は長い間そういうことと闘っている。保育士の人や保々連の人にも、今保育園がどう変わっていくのかを勉強して行ってほしい。

今日のこの場から、仲間を作って、道すじを作っていくことが貴重です。

## ◎ その他の話し合いから

### ○ 保育園について

- ・ 公私立含めても、保育園のある地域にバラつきがある。

→自宅の近くでもなく、会社の近くでもない保育園に、子どもを預ける事になってしまう。

- ・ 国の育休制度があっても、それを利用できる会社が少ない。更に市内での0歳児保育の数が少ない。

→仕事を続けたくても、退職せざるを得なくなってしまう。

- ・ 国の規制緩和によって保育園の定員超えが認められた。

→今の保育士達は必死に頑張っているが、保育の質は低下していないだろうか。

### ○ 小学校・学童について

- ・ 駅前の開発などにより、マンションがいくつも建ち、小学校1クラスの人数やクラスの数も地域によってバラつきがある。

→大規模校は良くない。先生も指導を行き届かせるのが大変、子ども達も落ち着きをなくすこともある。

- ・ 学童はパンク状態になっている。

→子ども達への指導が行き届かなくなってしまう。

### ◎ 市への要望事項

- 1 住んでいる地域の保育園・小学校に通えるように、施設を増やして下さい。
- 2 保育園の定員を守り、小学校を35人定員にさせて下さい。
- 3 学童の規模を小さくし、子どもに丁寧に関われる環境を整えて下さい。
- 4 小学校のように、子どものための施設の耐震工事をして下さい。

### ◎ 申し合わせ事項

○子育てをしている仲間同士、誰も孤立することなく、悩みを分かち合い、支え合っていこう。